

公共下水道料金改定

15年間据え置かれた料金、もうこれ以上は・・・

供用開始から15年間据え置かれてきた公共下水道料金。合併協議の時に、平成19年度から計画に基づいた額にすることが決められていました。それを検討する公共下水道事業審議会は、4回の審議会を経て8月13日に市長に対し、「料金を見直す必要がある」と答申されました。どうして、見直しが必要になってきたのでしょうか。姉川さん一家とともにその背景を探ります。

姉川さん一家

姉川きよし (お父さん)

姉川すみこ (お母さん)

姉川まもる (子ども、市内の中学生)

市役所職員

姉川の河口にある姉川大橋から上流をのぞむ

Contents

- 特集「公共下水道料金改定」 2～5P
- シリーズ「道州制と1市6町合併」 6～9P
- 新エネルギー 10・11P
- 文化の日 表彰に輝く人たち 12・13P
- ほつとにゆーす 14・15P
- 長浜駅駐輪場オープン 16P
- 長浜市景観計画・コミュニティ助成 17P
- 住基カード 18P
- 税、土地・建物の公売、物価統計調査 19P
- 幼稚園申込み、児童虐待、青少年 20P
- 後期高齢者医療制度、DV法改正、年金 21P
- お元気ですか(乳腺疾患相談) 22P
- 人権ってなあに、男女共同参画 23P
- 芸術文化祭、市長と気楽にトーク 24P
- パソコン講座、長浜学、成人式 25P
- インフォメーション 26・27P
- 裏表紙 28P

今月の表紙

「びわ湖環境ビジネスメッセ」が、24日(水)～26日(金)の3日間、長浜ドームで開催されました。10回目を迎えた今回は、出展者・小間数とも過去最大となり、日本最大級の環境産業総合見本市と呼ぶにふさわしいものでした。

今年は、従業員が10人以下の小規模企業や環境ベンチャー企業が多く出展されたのが特徴だったそうです。環境と経済の両立は、なかなか難しいものですが、小さな企業やベンチャー企業が出展されている様子を見ると、着実に環境産業が成立してきていることが実感できました。

小さな企業の小さな取り組みが、来年には地球を救う大きなものとなって、みなさんの暮らしの中に入って来るかもしれませんね。

みなさんも、日々の暮らしの中で何か一つ環境にやさしい取り組みを始められてはいかがでしょうか。すごい発見ができるかも知れませんよ。

公共下水道の概要

長浜市の公共下水道事業は、昭和58年に整備が始まり、平成3年から一部地域で供用を開始しました。平成18年度末には事業認可区域の93.5%で整備が完了し、市内の83.9%の人が公共下水道を利用できるようになっています。一方、農村下水道や浄化槽により市内の約16%がすでに整備されていることから、実際の下水道普及率は、ほぼ100%となっています。

また、公共下水道の水洗化率は、昨年末に過去最高の86.5%を記録し、多くの人に利用されている状況にもあります。

長浜市公共下水道事業概要

(平成18年度末)

旧市町名	旧長浜市	旧浅井町	旧びわ町	計
事業着手年度	昭和58年度	平成元年度	昭和63年度	
計画人口(人)	74,700	17,480	8,870	101,050
全体計画面積(ha)	2,105.7	698.0	476.0	3,279.7
事業認可面積(ha)	1,720.6	644.4	139.2	2,504.2
整備面積(ha)	1,608.2	594.5	139.2	2,341.9
行政区域内人口(人)：A	59,373	13,581	7,670	80,624
整備人口(人)：B	53,660	12,164	1,851	67,675
水洗化人口(人)：C	46,120	10,645	1,770	58,535
普及率(%)：B/A	90.4	89.6	24.1	83.9
水洗化率(%)：C/B	85.9	87.5	95.6	86.5

いくつかの理由があるんだけど、大きな理由は「合併による料金統一」と「経営計画の改定」の時期が重なったからなんだ。

市役所職員：そういえば9月の市議会で条例が可決されたみたいだな。

姉川きよし：僕が学校の帰りに市役所で聞いてくるよ。どうして料金が上がるのかを聞いたらいんだね。

姉川すみこ：しっかり聞いてよ。うちの家計も楽じゃないんだから。

市役所職員：それもそうだけど、今だけでなく将来にもかわることで決まったんですか。

料金の「統一と改定」をめぐって

市役所職員：8月13日に公共下水道料金を検討する「長浜市公共下水道事業審議会」から、市長に対し料金を見直した方がいいという内容の答申があったので、9月の市議会に料金を改定する条例を提案して、そこで承認をもらったんだよ。

姉川きよし：でも、どうして今なのか教えてください。

料金を見直さないといけないというのわかったけど、どうして上がるんですか。

市役所職員：「合併による料金統一」は、合併協議の中で「公共下水道使用料は、平成19年度から新市の公共下水道事業経営計画に基づいた額とする。」としていたから、今回は、それに基づいて料金を決めることになったんだよ。それにひとつのまちになって、同じ公共下水道を使っているのに料金が別々というのも変だからね。本当はもう少し早く統一したかったんだけどね。

市役所職員：もう一つは、「経営計画の改定期期」。公共下水道の料金は、5年に1度、計画を立て、その中でどれくらい料金を必要なのかを検討して決めていて、今回はその時期が来たというところなんだ。本来は、県の琵琶湖流域下水道第3期経営計画期間(平成17年度～平成21年度)に合わせて市の計画もつくるはずだったけど、平成17年度末に合併を控えていたので、今回、市は、平成19年度～平成21年度の3年間の計画で料金を検討したんだよ。